
NEWSLETTER

日本保健物理学会

No.51 July, 2008

目次

| | |
|----------------------|----|
| 総会報告 | 1 |
| 第42回研究発表会開催報告 | 2 |
| 学会賞授与式 | 2 |
| 理事会報告 | 2 |
| 平成19年度第6回理事会 | 2 |
| 平成19年度第7回理事会 | 4 |
| 企画委員会報告 | 5 |
| 平成20年度第1回企画委員会 | 5 |
| 編集委員会報告 | 6 |
| 平成19年度第5回編集委員会 | 6 |
| 国際対応委員会報告 | 7 |
| 放射線防護標準化委員会 | 8 |
| 第4回委員会 | 8 |
| 第19回幹事会 | 9 |
| 第20回幹事会 | 9 |
| 第5回委員会 | 9 |
| 大学等教員協議会 | 10 |
| 第3回協議会 | 10 |
| 若手研究会 | 10 |
| 活動報告 | 10 |
| 法人化検討WG | 11 |
| 第1回検討WG | 11 |
| 専門研究会報告 | 12 |
| ICRP新消化管モデル(第5回) | 12 |
| 放射線リスクコミュニケーション(第5回) | 12 |
| ラドン測定標準化(第1回) | 14 |
| 医療放射線リスク(第1回) | 14 |
| 放射線安全新パラダイム(第1回) | 14 |
| 学友会 | 15 |
| 活動報告 | 15 |
| 学会掲示板 | 16 |
| インターネットグループの活動 | 16 |
| 学会刊行物の案内 | 16 |

総会報告

平成20年6月26日沖縄コンベンションセンターにおける第42回研究発表会において、第48回日本保健物理学会総会が開催された。議長に九州大学の百島則幸会員、書記に福岡県保健環境研の檜崎幸範会員を選出した後、役員から前年度事業報告、決算報告、会計監査報告、平成20年度事業計画及び予算案について説明があり、質疑の後承認された。また、学会法人化の検討の計画、学会定款の改定について提案説明があり、承認された。

本年度の総会は昼食時に例年より長い時間をかけて実施され、説明、質疑とも落ち着いた雰囲気で行われた。

(原子力機構 村上博幸)

第42回研究発表会開催報告

日本保健物理学会第42回研究発表会(沖縄大会)は、平成20年6月26日(木)・27日(金)、沖縄県宜野湾市に所在する沖縄コンベンションセンターにおいて開催されました。310名の参加者と179演題の発表により、おかげさまで盛会となりました。誠にありがとうございます。

口頭発表に関する優秀賞(沖縄大会かりゆし賞)は2名の方が、優秀ポスター賞は6名の方が受賞され、いずれも26日夕刻からの懇親会席上にて表彰されました。受賞者には、賞状のほか、ミス沖縄から花束やレイが贈呈されました。おめでとうございます。

ポスターセッションでは、冷えたビール(オリオンビールさん提供)を片手に白熱した議論が展開されました。また、学友会主催のポスターコーナーでは、ミス泡盛(?)による試飲会も催されました。懇親会では琉球芸能が披露され、さらに2日目の昼休みには沖縄伝統「ぶくぶく茶」のお茶会が催されました。お楽しみいただけましたでしょうか。

至らぬ点多々あったとは存じますが、研究発表と沖縄の両方をご堪能いただけるよう、実行委員会ならびに裏方として活躍した学生一同、最大限の努力をしたつもりです。詳細は別途、学会誌にて写真なども交えて報告させていただきます。

(大会長 琉球大学 古川雅英)

学会賞授与式

平成20年6月26日沖縄コンベンションセンターにおける第42回研究発表会において、開会式に引き続き平成20年度保健物理学会学会賞の授賞式が行われ、小田会長から賞状と表彰楯が各受賞者に手渡された。本年度の受賞は、論文賞1件、奨励賞1件、貢献賞1件の3件であり、受賞者5人のうち、欠席の一人を除く4人が参加した。受賞者は以下の通り。

(論文賞) 森内 茂氏、堤 正博氏、斎藤公明氏

対象論文: 「各種形状寸法のNaI(Tl)シンチレーション検出器の γ 線応答関数の整備と試験」、保健物理、42(1)、71~83(2007)

(奨励賞) 小嵐 淳氏

(貢献賞) 江原範重氏

(原子力機構 村上博幸)

理事会報告

平成19年度第6回 理事会 議事概要

1. 日時: 平成20年1月30日(水) 13:30~17:40
2. 場所: 原子力機構 システム計算センター(上野) 7F 会議室
3. 出席者
理事: 小田(会長)、猪俣、太田、酒井、杉浦、谷口、服部、福土、古田、山澤、村上
監事: 千葉
参与: 高見、山外
委任出席: 斎藤、林、下
4. 議事概要
 - (1) 編集委員会活動報告の内容について簡単に紹介があり、投稿手引き等の改訂を進めていること等の説明があった。
 - (2) 企画委員会報告として、次期専門研究会の提案、シンポジウム実施報告及びシンポジウム企画案等の説明があり、次年度の専門研究会5件(うち継続2件)について承認された。また、シンポジウムの開催時の会員外参加者の会員化の促進、マスコミへの声かけの判断を企画側で行うこと、文科省等の役所への参加依頼についてのルール作り等の検討を行うことになった。
 - (3) 12月に開催されたOECD-NEA アジア地域会合の状況、AOARPのECメンバーの交代の承認、ICRP報告書に対するコメント依頼、NRE-IXへの協力の検討などについての報告があった。韓国及び中国との今後の交流に関連

し、学会賞受賞者や専門研究会担当者の韓国への派遣の検討やIRPA理事（ECメンバー）の候補者推薦方針の決定を早い時期に行うこととなった。

- (4) 放射線防護標準化委員会幹事会の状況報告があり、「重要な概念」に係るパブリックコメントのスケジュール等が紹介された。また、ラドンの線量規準のガイドラインについて現在議論を進めている等の説明があった。
- (5) 学友会活動の学会内での位置づけを明確にすること及び卒業論文情報を学会誌に掲載する方法について検討することとなった。また、大学における放射線安全管理教育連絡会について現状紹介があり、この連絡会の名称変更（「大学等における放射線安全管理教育連絡会」とする）について報告があった。
- (6) 現在の規定において明確でない学会内組織（理事会への若手参与の参加、大学等教員協議会、若手研究会、学友会、女性の会など）の明確化について、今後検討していくこととなった。また、アイソトープ・放射線研究発表会への保健物理学会からの企画提案について、今回は取り下げた旨の報告があり了承された。
- (7) 平成19年度第3四半期における会計状況についての紹介があった。
- (8) JARR内での「学会誌」英文論文の交流・一元化等の提案について、海外の学会との関連性などを考慮して当面現状のままとすることとした。沖縄での研究発表会において、日本放射線安全管理学会会員の参加費を会員と同じとすることについて了承された。原子力総合シンポジウム2008(5月)における保物学会としての紹介発表提案を今回は見送りとすることとした。
- (9) 若手研について、12月から企画委員会に参加していること、今年度いっぱいで幹事が交代することの報告があった。これに対し、新たな参与の理事会参加の依頼を出すこととした。
- (10) H21年度の研究発表会について、開催地及び機関として唯一提案のあった大阪・近畿大学とすることが決定された。
- (11) 平成20年度学会賞について選考までのスケジュール等について報告があった。
- (12) 名誉会員推薦に係る現状説明があり、「会員フェロー（仮称）」等の創設、「会員証」発行の計画等について説明があった。これに関連し、次回以降の理事会において定款等の改定案を基にさらに議論すること、今年度の名誉会員については、現行の定款に基づき、過去の会長、研究発表会大会長、功労賞受賞者を軸に推薦者を選定することとした。
- (13) IRPA-12への若手研究者派遣候補者の決定方法について説明があり、今後、各理事から提出された審査表を基にメーリング理事会において最終決定することとした。
- (14) 入退会希望者について承認された。これに関連し、海外長期出張者などを対象とした「休会」の制度化について今後早い時期に検討することになった。
入会：（正会員）1名
退会：（正会員）2名
- (15) 学会の法人格取得及び法人名について、過去の理事会や臨時委員会でなされた「法人化」および「学会名改称」の検討の経緯、また本年施行される新「公益」法人制度等についての紹介があり、今後理事会を中心に検討を進め、次回総会において「法人格取得」や「法人名」について検討開始を提案し、その後議論を深めていくこととする手順が了承された。
以下、メーリング理事会。
- (16) 退会について及び放医研より依頼のあった「低線量放射線影響に関する放医研国際シンポジウム」の後援について承認された。（2月7日付）
退会：（正会員）3名
- (17) 入退会について承認された。（2月15日付）
入会：（正会員）4名
退会：（正会員）3名
- (18) IRPA-12に参加する若手研究者への助成について、3名を対象者とすることを決定した。（2月20日付）
- (19) 入退会について承認された。（2月29日付）
入会：（正会員）7名
（準学生会員）5名
退会：（正会員）1名
- (20) 入退会について承認された。（3月14日付）
入会：（正会員）2名
退会：（正会員）1名
- (21) 入退会について承認された。（3月27日付）
入会：（正会員）2名

退会：（正会員）3名

（原子力機構 村上博幸）

平成19年度第7回 理事会 議事概要

1. 日時：平成20年4月2日（水）13:30～17:40
2. 場所：原子力機構 システム計算センター（上野）7F 会議室
3. 出席者
理事：小田（会長）、猪俣、斎藤、酒井、杉浦、谷口、服部、林、古田、山澤、村上
監事：下、千葉
参与：古川、荻野、小池
委任出席：太田、福士
4. 議事概要
 - (1) 研究発表会沖縄大会の準備状況について説明があり、理事会、総会、協議会等の開催スケジュール及び追加ポスター数の確認を行った。
 - (2) 編集委員会活動報告として、電子投稿の基準や「生命倫理」に係る記載の追加等の投稿規程の改訂を進めていることについて報告があった。また、会員外からの問い合わせのある保健物理 DVD 販売については、従来通り会員のみを対象とすること等の説明があった。
 - (3) シンポジウム実施報告及び今年度の専門研究会のメンバー確定報告の他、シンポジウム企画時におけるマスコミへの声掛けに係る検討状況やNEWS LETTER の郵送廃止等の説明があった。
 - (4) 韓国との連携に伴う実際の交流の仕方の提案、ICRP 新勧告シンポジウムの報告、今後の国際関係会合の予定等について説明があった。また、IRPA 理事の“アジア枠”を確保するための候補推薦の方法について、韓国及び中国との協議状況の報告があった。
 - (5) 放射線防護標準化委員会の状況報告があり、この中で「重要な概念」に係るパブリックコメントのスケジュール、ラドンの線量規準ガイドライン策定の状況等が紹介された。また、2年の任期満了に伴う委員会の新メンバーについて承認された。
 - (6) 大学等教員協議会及び学友会活動について、臨時委員会と同等の性格を持つものと解釈し、定款及び学会規定の臨時委員会関係の条文において、「委員会」を「委員会等」に変更することで対応することとなった。
 - (7) HP を利用した広報活動や急性の放射線影響に係る一般的資料上の数値の変更促進等についての提案があり、数値の見直しについて積極的に進めるべきとの議論があった。
 - (8) 平成19年度決算案、平成20年度予算案の説明があり、さらに細かい表現や金額の見直しを行い再提示することになった。
 - (9) 原子力学会 CPD、「放射線夏の学校」共催案、放射線影響研究功績賞の推薦方法の議論の必要性、原子力学会保健物理・環境科学部会との連携等の説明があり、「放射線夏の学校」の共催について承認された。
 - (10) 4月からの若手研参与等の交代及びH19年度予算の決算に係る報告があった。
 - (11) 平成20年度学会賞候補者推薦に係る審議状況等について説明があり、提案された論文賞1件、奨励賞1件、貢献賞1件について承認された。今後、論文賞の対象の見直しや委員会の推薦の見直しを含めた選考方法の再検討を行うことが確認された。
 - (12) 「特別会員制度」、「休会制度」の新設等を目的とする定款及び学会規定の改定案を含めた会員制度の明確化等について説明があった。これに関し、規定に係る細かな文言の修正、賛助会員の特典等についてさらに検討することとなった。
 - (13) 名誉会員の推薦について、今年度は名誉会員の推薦を見送ることとした。今後、早い時期に推薦基準（内規）を明確にし、次年度以降の推薦に対応することになった。
 - (14) 学会法人化について、理事会の中にWGを設置してさらに検討することとした。
 - (15) 入会について承認された。
入会：（正会員）1名
（準学生会員）4名
退会：（正会員）5名

以下、メーリング理事会。

- (16) 入退会について承認された。また第25回エアロゾル研究科学技術研究討論会協賛について承認された。（4月18日付）

-
- 入会：(正会員) 2名
退会：(団体会員) 1機関
- (17) 入退会について承認された。(4月28日付)
入会：(正会員) 3名
退会：(正会員) 4名
(団体会員) 1機関
- (18) 放射線安全管理学会から依頼のあった「日本放射線安全管理学会6月シンポジウム」の共催について承認された。
(4月24日付)

*H19年度のメーリング理事会のうち、議事録への記載が抜けていたため追加記載。

- (19) 退会について承認された。(平成19年11月14日付)
退会：(正会員) 2名
- (20) 入退会について承認された。また第26回空気清浄とコンタミネーションコントロール研究大会の協賛について承認された。(平成19年11月22日付)
入会：(正会員) 2名
(準学生会員) 2名
退会：(正会員) 1名

(原子力機構 村上博幸)

企画委員会報告

平成20年度第1回 企画委員会 議事録

1. 日時：平成20年5月30日(金) 13:30~15:30
2. 場所：原子力研究開発機構システム計算科学センター
3. 出席者
古田(委員長)、太田、谷口、飯本、大内、伴、米原、渡辺浩、渡辺想、山崎、細田、中田(幹事)
4. 議題
 - (1) 第4回企画委員会議事録確認
 - (2) 理事会報告
 - (3) 各専門研究会担当企画委員の決定及び活動報告
 - (4) 第42回研究発表会のポスターについて
 - (5) 保物セミナー担当企画委員の決定
 - (6) 今年度企画行事の検討
 - (7) 広報報告
 - (8) インターネットグループ報告
 - (9) その他
配布資料
 - 1-1 平成19年度第4回企画委員会議事録(案)
 - 1-2-1 平成19年度第7回保健物理学会理事会議事録
 - 1-2-2 平成20年度第1回保健物理学会理事会議事録
 - 1-2-3 平成19年度事業報告
 - 1-3 企画委員会第42回研究発表会ポスター(案)
 - 1-4 インターネットグループの活動について
5. 議事
 - (1) 第4回企画委員会議事録
前回会合の議事録を確認した。
 - (2) 理事会報告
理事会での議事・報告事項を確認した。報告に関連して、共催企画は事務局を通すこと及び総会成立条件が変更検討されていること等が報告された。
 - (3) 各専門研究会担当企画委員の決定及び活動報告
各専門研究会担当委員からそれぞれの専門委員会の報告があった。

ICRP 新消化管モデル専門研究会については、4月に「ICRP 新消化管モデル専門研究会」報告書（～Publ.100の解説～）を公開した。次回会合は6月に開催予定している旨の報告があった。

放射線のリスクコミュニケーション検討専門研究会については、10月4日にシンポジウムを開催予定。また、学会ホームページにリスコミの説明資料を載せる予定との報告があった。

今年度新規に開始された「ラドン測定標準化専門研究会」、「医療放射線リスク専門研究会」、「放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会」の担当企画委員は、それぞれ飯本委員、伴委員、中田委員が担当することが決定された。また、担当企画委員から3件とも個別に第1回会合を第42回研究発表会に併せて開催する予定との報告があった。

また、専門研究会の活動費について増額することが検討された。活動費は、現在10万円であるが会合のための旅費が出せず、中途半端なことから一切使用していない研究会もあり、来年度を目途に20万円に増額することが検討された。理事会での承認が必要なため今年度の使用実績等を確認することとした。

(4) 第42回研究発表会のポスターについて

各専門研究会担当企画委員は、第42回研究発表会に出す専門研究会のポスター作成について、フォローすることが確認された。企画委員会のポスターについては、案が確認され、今年度開催予定のシンポジウムを追記することとなった。

(5) 保物セミナー担当企画委員の決定

今年度保物セミナー担当企画委員は、前年に引き続き、米原委員が担当することが決定した。

(6) 今年度企画行事の検討

今年度企画行事について、開催予定は10月下旬とし、日本放射線安全管理学会との共催を念頭に放射線による生物影響についてシンポジウムを開催することを検討している旨の報告があった。本件について、今後、具体的な内容を検討する。

(7) 広報報告

学会ホームページの見直し案の報告があった。本件に関連し、ホームページの英語版についても検討された。英語版は、日本語版にあわせることが望ましいが、全てを作成するのは、労力が掛かりすぎる、また、専門研究会の報告書は、英語版を作成することで日本語版の公開時期が遅れる可能性があるなどの意見が出された。検討の結果、見出し等はなるべく日本語版に併せて作成し、報告書のアブストは各専門研究会の自主性に任せる方向で検討することとなった。

また、各専門研究会の紹介ページの英語版をホームページに載せるため、各専門研究会の担当委員は、フォローすることが確認された。

(8) インターネットグループ報告

Newsletter No.51は、7月中旬を目途に発行することとした。

NL アドレス登録のアナウンスは、ホームページ及び学会誌に登録を呼びかける文書を掲載することが決定された。

(9) その他

次回の会合は、8月末もしくは9月中旬に開催予定。

(企画委員会幹事 原子力機構 中田 陽)

編集委員会報告

平成19年度第5回 編集委員会報告

1. 日時：平成20年3月19日（水）13：30～17：00
2. 場所：東京大学工学部9号館会議室
3. 出席：斎藤（委員長）、木名瀬（幹事）、赤羽、石川、木内、木村、小池、中野、林、安岡、横山、大倉（若手）、笠原（事務局）
4. 議題
 - (1) 第4回編集委員会議事録確認
 - (2) 投稿規則および手引きの見直し
 - (3) 論文投稿時における諸問題の検討
 - (4) 論文審査状況、43-1号編集進捗状況の確認
5. その他
配布資料

-
- 5-1 2007年度第4回編集委員会議事録(案)
- 5-2-1 「保健物理」投稿規則
- 5-2-2 「保健物理」投稿の手引き
- 5-2-3 Japanese Journal of Health Physics Instructions to Authors
- 5-2-4 web 引用
- 5-3-1 検討事項
- 5-3-2 覚書 11 案
- 5-3-3 学会賞の論文賞選考に関する問題点
- 5-3-4 特集記事の提案
- 5-4-1 A パート進捗状況
- 5-4-2 B パート進捗状況
- 5-4-3 C パート進捗状況
- 5-4-4 若手研究会記事
- 5-5-1 42-4, 43-1 号編集状況
- 5-5-2 論文審査状況
- 参考資料 1 覚書 (1~10)
- 参考資料 2 「保健物理」等発送作業報告書
- 参考資料 3 「保健物理」印刷製本費等資料
6. 議事
- (1) 前回議事録の確認
2007年度第4回編集委員会議事録が承認された。
- (2) 投稿規則等の見直し
「保健物理」投稿規則、「保健物理」投稿の手引きおよび Japanese Journal of Health Physics Instructions to Authors の修正案について検討した。引き続き、精査することになった。
- (3) 論文投稿時における諸問題の検討
生命科学などに関する研究論文の倫理的配慮の記載について検討した。論文における倫理的配慮の有無については、投稿者への確認事項として明示する必要があるため、投稿規則や投稿前のチェックリストに記載することとなった。
投稿論文の図、表のフォーマットの在り方、インターネットを用いた論文投稿システムについて検討した。今後、情報を収集し検討することとなった。
投稿論文における個人情報保護等について検討した。投稿論文をインターネットで配信する場合には、パスワードを設定することとなった。
- (4) 企画記事の検討
専門研究会、国際機関の活動、国内外で開催された会合に関連した記事の執筆等進捗状況が確認された。また、企画委員会との連携活動として、ICRP 新勧告に関する記事について具体的な提案があり了承された。
- (5) 論文審査状況、43-1 号編集進捗状況の確認
次号 43-1 号以降の掲載論文の審査状況が確認された。
- (6) その他
B パート幹事の補佐として安岡委員、C パート幹事の補佐として中野委員が行うこととなった。
「保健物理」電子媒体 DVD の取り扱いについて検討した。DVD の販売は、今後とも、会員のみを対象とすることが確認された。
学会賞の論文賞推薦方法、編集委員会の覚書、2007年度の保健物理等発送作業、印刷製本費などについて確認された。
今回の会合は、平成 20 年 6 月 23 日(月) 13 時 30 分から、東京で開催されることとなった。
- (編集委員会幹事 原子力機構 木名瀬 栄)

国際対応委員会報告

1. IRPA (国際放射線防護学会) との連携
- (1) IRPA-12 の会期中、10 月 22 日に IRPA 総会が開催される。日本保健物理学会は 8 名の参加枠を有しており、小田啓二会長、杉浦紳之副会長、酒井一夫国際対応委員会委員長、服部隆利国際対応委員会副委員長、ならびに小佐古

敏荘、中村尚司、占部逸正、保田浩志各会員を登録した。

また、同時に開催される会務会合には国際対応委員会正副委員長が対応する予定である。

(2) 同総会にて、理事の改選が行われる。現在、アジア地域からの理事が1名もいないことに鑑み、アジア地域からの代表として Kim Jong Kyung (韓国) AOARP (アジアオセアニア放射線防護学会) 会長を推す方向で調整を進めている。

2. 韓国放射線防護学会との連携

11月20日 - 21日に開催される韓国放射線学会秋季大会が"Space and Marine Radiation/Radioactivity"のテーマで開催される。保健物理学会からの交流報告として、野口邦和会員(日本大学歯学部)を派遣し、航空機搭乗者の宇宙線被ばくに関する専門研究会(2004-2005)の成果を発表することとした。

今回の派遣は、これまでに実施してきた会長・理事の相互訪問による日韓交流を越えて、学術的内容に踏み込む初めての試みである。

3. 11月10日 - 14日に北京にて開催予定の中国放射線防護学会ならびにICRP新勧告関連のシンポジウムに専門家2名の招待を受けており、派遣の人選を進めている。

4. ICRP 報告書「緊急被ばく状況におけるヒトの防護」に対するコメントの取りまとめ

標記ドラフトがICRPのウェブページで公開され、メーリングリストを介して会員に意見募集の告知を行った。寄せられたコメントを国際対応委員会にて取りまとめ、ICRPに送付する予定である。

(放医研 酒井一夫)

放射線防護標準化委員会

標準、規準案の策定専門部会を兼ねる幹事会を中心に、以下の活動を実施している。

第4回 委員会

開催日：平成20年3月12日(水)

場 所：東京大学(本郷会場、東海会場)

出席者：小佐古(委員長)、金子(副委員長)、飯本、山本、橋本、片岡、鈴木(幹事)、廣田(幹事代理)、服部、中居、飯塚、渡辺、千葉、谷口、河田、東(委員)、平(委員代理)、猪俣(理事)

配付資料：

- 4-1-1 日本保健物理学会 第3回放射線防護標準化委員会議事録(案)
- 4-1-2 同 放射線防護標準化委員会幹事会活動実績
- 4-2-1 同 放射線防護の重要な概念(案)の決議投票の依頼について
- 4-2-2 同 放射線防護の重要な概念(案)に対する投票結果
- 4-2-3 投票におけるその他コメントへの対応(案)
- 4-2-4 放射線防護の重要な概念(修正原案)
- 4-2-5 「重要な概念」解説書について
- 4-3-1 ラドンに関する線量規準のガイドライン(案)
- 4-3-2 ラドンに関する線量規準のガイドライン(案)の参考資料
- 4-3-3 ラドンの防護に関するガイドラインの構造(案)
- 4-4 平成20年度放射線防護標準化委員会の活動予定
- 4-5 日本保健物理学会 放射線防護標準化委員会の次期委員(案)
- 4-6 平成20年度予算編成のための概算要求の提出(回答)(案)

議事概要

1. 「放射線防護の重要な概念」について

重要な概念の決議投票の結果、当該議案が可決されたことが報告された。本案をもって公衆審査に行うこととした。

2. 「ラドンに関する線量規準のガイドライン」について

同ガイドラインについては、次回の委員会で確認して公衆審査に移行できるよう、本文や構成について検討することとした。

3. 次年度の活動計画について

専門部会の設置については、個別テーマ毎に行うのではなく、大きく4つ程度の専門部会とする方向で、構成等

について幹事会で検討することとした。

4. 次期委員の選任について
次期委員の提案が了承され、理事会の承認手続きを行うこととした。
5. 次年度予算について
次年度予算案の提案に対し、各種ドキュメントの散逸防止のため、標準等維持管理費を本案に追加することとした。

第19回 幹事会

開催日：平成20年5月9日（金）

場 所：東京電力 本館 7階会議室

出席者：杉浦、飯本、橋本、山本、片岡、鈴木（幹事）、服部、猪俣（理事）

議事概要

第42回研究発表会での活動内容（ポスター掲示、配布物など）、ラドンに関する線量規準のガイドラインの検討状況、専門部会の設置について議論を行った。

第20回 幹事会

開催日：平成20年5月28日（水）

場 所：東京電力 東新ビル 1階 105会議室

出席者：小佐古（委員長）、杉浦、飯本、橋本、山本、片岡、鈴木（幹事）、服部、猪俣（理事）

議事概要

次回本委員会の準備、第42回研究発表会での活動内容（ポスター掲示、配布物など）、重要な概念に対するコメントへの対応方針、ラドンの防護に関するガイドライン、専門部会の設置の方向性などについて議論を行った。

第5回 委員会

開催日：平成20年6月27日（金）

場 所：沖縄コンベンションセンター 会議棟B 2階B会場

出席者：小佐古（委員長）、金子（副委員長）、杉浦、飯本、橋本、鈴木（幹事）、山外（幹事代理）、服部、米原、中居、飯塚、渡辺、千葉、河田、吉田（委員）、猪俣理事、我妻、宮川（委員代理）

配付資料

- 5-1-1 日本保健物理学会 第4回放射線防護標準化委員会議事録
- 5-1-2 同 放射線防護標準化委員会幹事会活動実績
- 5-2 人事について（標準化委員会）
- 5-3-1 「放射線防護の重要な概念」の公衆審査結果及びその対応について
- 5-3-2 「放射線防護の重要な概念」（修正案）
- 5-4 「ラドンの防護に関するガイドライン」について
- 5-5 専門部会準備会の設置について（案）
- 5-6 ガイドライン「表面汚染免除レベル」（案）
- 5-7 平成20年度予算編成のための概算要求の提出（回答）

議事概要

1. 人事、役員を選出について
前回委員会で選任された委員について、平成19年度第7回理事会で承認されたことが報告され、運営規則、同細則に従い、委員長の選出、副委員長及び幹事の指名が行われた。
2. 「放射線防護の重要な概念」の公衆審査結果について
重要な概念に対する公衆審査で寄せられた意見への対応案が承認された。今後、公衆審査結果及び重要な概念のホームページ掲載手続きに入ることとした。
3. 「ラドンの防護に関するガイドライン」について
ガイドライン案とガイドラインの構造案について議論を行った。今回出された意見を含め、幹事会で更に議論することとした。
4. 専門部会準備会の設置について
正式な各専門部会の立ち上げに先立って、専門部会の体系や運営内規原案の作成等、専門部会の設置準備を実施することを目的とした「専門部会準備会」を立ち上げることが承認された。

-
-
5. ガイドライン「表面汚染免除レベル」について
原案作成を専門部会準備会で行うことが承認された。
 6. 平成20年度予算について
平成20年度予算について報告された。

(放射線防護標準化委員会幹事 東京大学 飯本武志)

大学等教員協議会

第3回 協議会

開催日時：平成20年6月27日 12:30～13:10

場 所：沖縄コンベンションセンター A会場

内容

1. 19年度の活動報告
 - ・ 第41回研究発表会サテライトフォーラムでの「放射線防護に関する学生フォーラム」の開催（平成19年6月13日、東京大学）
 - ・ 学友会主催「第1回学生研究発表会」の開催支援（平成19年12月16日、名古屋大学）
 - ・ 卒業論文等情報の学会誌掲載
2. 各大学の現状紹介
大分看護大、京大、福山大、神戸大、神戸薬科大、近大、核融合研、名大（医・保健、工）、札幌医大の現状報告
3. 今後の活動と体制についての議論
 - ・ 情報共有を目的として、学会HP内の協議会ページの随時更新（社会人Dを含む大学院入試情報の提供）
 - ・ 学友活動の支援の継続
 - ・ 学会規定類改訂に伴う協議会体制整備：来年春を目途に協議会長及び幹事1,2名を選任する
上記の議論を受け、協議会HPの更新を必要に応じて行います。更新・追加を希望する場合は、
幹事（山澤：yamazawa@nucl.nagoya-u.ac.jp）までご連絡下さい。掲載情報は以下のとおりです。
 - ・ 研究室名：XX大学YY研究科（学部）ZZ専攻（学科）aa研究室
 - ・ スタッフ名：主宰者のみかスタッフ全員かは任意
 - ・ 所在地及びURL
 - ・ 研究内容／最近の話題：テーマ、主要装置、学生状況等
 - ・ 入試情報：日程、募集内容、入試要項の入手方法等

(名古屋大学 山澤弘実)

若手研究会

活動報告

1. 主査・幹事会合の実施
平成20年度より、新しい主査と幹事による新体制がスタートいたしました。各自の今期における抱負を日本保健物理学会誌（第43-2号）の若手研究会のページに掲載しております。4月22日に実施した主査・幹事会合で今期の方針を決定しました。今期の活動方針は以下の通りとなっております。

- (1) 若手研セミナーの実施（年1回）
- (2) 若手勉強会の開催（年数回）
- (3) 学友会との連携によるイベントの開催
- (4) 放射線防護標準化委員会への若手枠追加
- (5) 若手研究会会則の作成
- (6) 若手研究会活動冊子の作成
2. 第1回若手勉強会の開催

若手研究会では、従前の若手セミナー（年1回）に加え、若手勉強会（年数回）を実施する運びとなりました。記念すべき第1回目は、低線量放射線影響の専門家である小穴孝夫先生（電中研）を講師にお招きし、「放射線による発癌リスクは線量に比例するか？」というタイトルでご講演を頂戴いたします。なお、若手勉強会は一般会員の方も参加可能となっておりますので、今後も学会MLや若手研HPにて皆様に開催案内をご連絡させていただきます。

ます。

3. 会員の募集

若手研究会では会員を随時募集しております。現在の会員は45名です。35歳以下の学会員であれば、どなたでも入会資格がありますので、下記の主査あるいは幹事までお気軽にご連絡下さい。

主査：山外 功太郎（日本原子力研究開発機構）

TEL：029-282-5183, FAX：029-282-5933

E-mail：yamasoto.kotaro@jaea.go.jp

幹事：荻野 晴之（電力中央研究所）

TEL：03-3480-2111, FAX：03-3480-3564

E-mail：haruyuki@criepi.denken.or.jp

幹事：小池 裕也（東京大学）

TEL：03-5841-2876, FAX：03-5841-3049

E-mail：koi@ric.u-tokyo.ac.jp

（原子力機構 山外功太郎）

法人化検討WG

第1回会合 議事録

日時：平成20年4月30日（水）15:00～17:10

場所：日本原子力研究開発機構計算機センター

出席者：杉浦、林、千葉、谷口、村上、小田、下（オブザーバー）

議題：

1. 調査報告について

4/2 理事会配付資料以後の検討経緯について報告された。

先行調査の結果、「〇〇学会」の商標登録は370件あるものの、「保健物理」や「放射線」に関するものはなかった。なお、申請から登録まで、約1年から1年半かかるとの事であった。

現在の定款を行政書士に見てもらったところ、総会成立要件と解散について一般の法人としては不備がある（1/5で総会成立、重要案件でも過半数、つまり1/10で解散できる）ことを指摘された。

2. 定款の一部改訂について

応用物理学会、日本原子力学会、日本アイソトープ協会など他の学協会の定款の多くは、会員（または社員）の過半数で総会が成立、解散は出席者の3/4となっている。本学会総会出席の過去の実績を参考にして、「総会成立要件を会員の1/3以上、解散は理事会および総会出席者の3/4以上」とする原案が説明され、議論の結果、これを理事会原案とすることになった。

3. 総会での了承事項について

2009年6月での総会での法人化の可能性を考えると、次回総会です承頂く項目として、以下の5つがある。

(1) 法人制度の検討開始

(2) 定款の一部改訂（総会成立要件、特別決議について）

(3) 理事会判断による商標登録申請

(4) 法人名称の検討の開始

(5) 理事会判断による「一般社団法人日本保健物理学会」の設立

項目(5)については、時期尚早との意見が多く、次の議題4と合わせて議論された。

4. スケジュールと今後の進め方について

2009年総会を目安として検討するとして、それまでどのように進めていくか意見交換を行った。主な意見は以下の通り。

- ・ 法人化への議論開始は問題ないだろう
- ・ 1年以上議論するほどのことではない（2009年総会で一定の結論を出すというスケジュールで構わない）
- ・ 会員への説明/周知が不十分な段階での「法人設立」はまずい
- ・ 総会直前あるいは総会後の法人設立というスケジュールを検討すべきである
- ・ 「何故法人化するのか」（法人化のメリットは何か）について、会員の納得する理由を説明する必要がある。例えば、

省庁からの調査研究の受託（学会活動の活性化と社会へのアピール）

標準化委員会で検討されている「学会標準」の意味づけ

「保健物理士」などの学会認定制度

- ・ 大きなデメリットがないことも説明する
 - ・ 積極的な情報発信、反対意見や疑問を聞く機会をできるだけ多く設定する。例えば、次回総会で説明後、メーリングリストやホームページ上での定期的な情報提供シンポジウム開催（9～10月および12～1月の2回）
- 次回： 総会后7月中

(神戸大学 小田啓二)

専門研究会報告

ICRP 新消化管モデル専門研究会

本専門研究会では、ICRP Publ.100「放射線防護のためのヒト消化管モデル」について、学会員の共通の理解と情報共有のため活動しています。昨年は、ICRP Publ.100 のレビューを中心に活動してきましたが、今年度からは、ICRP 新消化管モデルに関連するテーマで最新の研究成果を紹介し、議論する講演会形式の会合として進めてまいります。

第5回会合を6月16日(於 千葉)に開催しました。第5回会合では、ICRP 新消化管モデルに関連する講演として、① 内部被ばく線量評価に用いる新しいモデル(石博主査)、② 膀胱壁の放射線感受性の高い細胞を考慮した光子・電子における吸収線量の評価(JAEA 東海 渡部陽子先生)、③ 幹細胞を考慮した胃簡易モデルにおける光子および電子エネルギー付与解析(木名瀬委員)、④ 放射線発がん幹細胞についての私見(放医研 島田義也先生)、の4件の講演を行い、質疑応答では、特に線量評価における幹細胞の取扱いについて熱心な議論となりました。この他、会務として、シンポジウムの開催について検討し、ICRP 新消化管モデルだけではなく、内部被ばく評価に関連するトピックスも含めたシンポジウムの検討を進めることとしました。

今後も3ヶ月に1回程度の頻度で開催していく予定です。関心のある方のオブザーバー参加をお待ちしております。
(原子力機構 伊藤公雄)

放射線リスクコミュニケーション専門研究会

1. 日時：平成20年5月16日(金) 13:30～15:45
2. 場所：日本原子力研究開発機構 東京事務所 第5会議室
3. 出席者(敬称略、五十音順)
大内浩子、篠原邦彦、谷口和史、永井博行、米澤理加(委員)、中川晴夫(オブザーバー)
4. 議題
 - (1) 保健物理学会員のためのリスクコミュニケーション講座(教育資料)について(各種学会のマスコミの対応事例についても含む)
 - (2) リスクコミュニケーションに関する学会ホームページ活用について
 - (3) シンポジウムについて
5. 資料
 - (1) 保健物理学会員のためのリスクコミュニケーション講座(案)
 - (2) 保物学会のマスコミ対応事例について
 - (3) RCに関する学会ホームページ活用の検討(案)
 - (4) 保物学会研究発表会用ポスター(案)
6. 議事内容
 - (1) 保健物理学会員のためのリスクコミュニケーション講座(教育資料)
大内委員が中心となって作成している教育資料がある程度でき、一通り確認した。修正・追加等については、特に時期は定めないができるだけ早めに対応する。資料は、完成後、学会のホームページ上(研究会のページ)に掲載する。
 - ① 前回以降からの変更点
 - ・ 木下先生の講演を引用して、日本のリスクコミュニケーションの歴史を盛り込んだ。(文章のニュアンスについても一部修正している。)
 - ・ 各委員から出されたリスクコミュニケーション事例を盛り込んでいる。(つなぎあわせただけになっているので、バランス等をどうするか検討が必要。)
 - ② 今後の作業(()内は担当者、敬称略)

【リスクコミュニケーション事例の見直し】

- ・ 事例は、行政、事業者、病院、大学、学会などに分類して示す。
- ・ 各事例には、作成者の名前を載せる。
- ・ 4-2章：他の事例とあわせて、もう少し情報量を多くする。（米澤）
- ・ 4-8章：各種学会の広報の実態に関するアンケート結果は、公表することを前提として調査していないかもしれないので確認する。また、調査時期は2006年なので、より新しい情報があれば盛り込む。（谷口）
- ・ 4-9章：レスポンスフルケアについては残すが、そのほかの事例については、参考となるホームページや書籍の紹介にする。（米澤）

【用語集の作成】

- ・ リスクコミュニケーションについてあまり知らないという保物学会員の視点で資料を読んで、意味の理解できない単語を抜き出し、解説する。（永井）
- ・ 用語集は、本文を読みながらすぐに調べられるように、容易にリンクがはられていると使いやすい。

(2) リスクコミュニケーションに関する学会ホームページ活用

ホームページを管理・運営していくには、それなりの組織が必要。これまでに森本委員が中心となって企画した案は、内容は充実しているが、現在の学会組織では運営していくところがない。そのため、今回は、リスクコミュニケーションに関するホームページの企画を学会に提案する。（ホームページについての検討の経緯は、報告書にまとめる。）

(3) シンポジウム

今年秋頃に、リスクコミュニケーションに関するシンポジウムを開催する予定。

① 内容

リスクコミュニケーションに関する講義と実際の場面を想定した模擬の対話

② 開催時期及び場所

- ・ 秋の原子力学会（9/4-6）が終わった後、IRPA（10/19-24）の前までの土曜（午後半日程度）を候補とする。（医療関係者にも参加してもらいたい。）
- ・ 千代田テクノルの会議室が週末でも利用可能。

③ 講師候補

- ・ 第一候補
木下先生。（近本委員から先生に相談願う。）
- ・ 他の講師候補
吉川先生、北村先生、八木先生など。

④ 集客

- ・ 50～60名程度（目標）。
- ・ マスコミにも声をかける。
- ・ 6月の研究発表会のポスターにもシンポジウムに関する宣伝を盛り込む。

(4) 意見交換から（トピックス）
① ダイヤル 110 番

原子力学会では、マスコミから何かあったときに「誰に聞いたらいいの？」と言われていたので、学会として即答できる相談窓口的な機能を設置する話がある。（春の年会の会長挨拶で紹介されていた。）

② 組織と個人

- ・ 保物学会には、さまざまな分野の専門家がいる。1つの質問や記事などに対しても、考え方がいろいろあり、学会としてまとめて示すことは難しい。（誰が書いて、責任を持つか？）しかし、海外や原子力以外の分野では、学会としての見解を示しているところもある。
- ・ 一人の専門家としては話せることも、事業者としての立場では話したくても話せないこともある。ジレンマを感じる。

(5) その他
① 研究会紹介ポスターについて

- ・ 研究発表会に参加される大内委員に研究会紹介ポスター掲示、質問の応対等、当日の対応をお願いする。
- ・ 学会員のためのリスクコミュニケーション講座の具体的な開講時期やシンポジウムの宣伝を盛り込む。

（原子力機構 谷口和史）

ラドン測定標準化専門研究会

ラドン測定、校正技術の成熟に伴い、ラドン測定器も多く販売されるようになった。一方で、測定器使用者は必ずしもラドンの専門家ではない状況が増大している。公表される数値の信頼性を担保するためには、標準化の取り組みが必要である。さらに、NORM やウラン系廃棄物の処分に関する検討が進めば、ラドンに係る規準との比較や評価において、標準化された測定法、校正法が必要である。

このような状況を鑑みて、日本保健物理学会は平成 20 年度より「ラドン測定標準化専門研究会」を設立した。本研究会は、標準的な手法の提案、技術上の課題を明確化することで、将来的な日本の国家標準の確立に貢献することを目的とする。委員は以下の通り。

主査：床次眞司（放医研）

委員：飯田孝夫（名大）、石川徹夫（放医研）、五代儀貴（環境研）、北口博司（日立）、真田哲也（分析センター）、田阪茂樹（岐阜大）、安岡由美（神戸薬大）、柚木 彰（産総研）

幹事：石森 有（原子力機構）

担当企画委員：飯本武志（東大）

第 1 回目の専門研究会は、以下の内容で議論を行った。

第 1 回 ラドン測定標準化専門研究会議事録

日 時：平成 20 年 6 月 25 日（水） 16:00～18:00

場 所：てんぶす館（会議室）那覇市国際通り

参加者：委員 9 名、オブザーバー 4 名

議事要旨：幹事より研究会設立の趣旨確認の後、主査より検討方針の提案と国内外の動向として ISO 及び IEC の取り組みを中心に紹介があり、委員より放射能測定に係る国家標準の仕組み及び標準化委員会の取り組みの現状について紹介があった。

（原子力機構 石森 有）

医療放射線リスク専門研究会

本研究会は、近年増加の一途をたどる医療被ばくに関して、放射線リスクに対する考え方を整理することを目的として、今年度新たに設立された。医療被ばくの実態と放射線影響に関する知見を踏まえた議論を展開するために、メンバーは医療放射線分野の会員と放射線影響・リスク分野の会員で構成されている。

第 42 回研究発表会の前日、6 月 25 日に那覇で第 1 回の会合を開催した。今後の活動方針について話し合い、以下の事項を確認した。

- ・ プロダクトは、報告書（英文、和文）、保物学会誌への報告書概要記事の投稿、医療系雑誌への解説記事の投稿を基本とする。
- ・ 上記以外に、Lancet 論文、Brenner 論文、COMARE の報告書等、医療被ばくのリスクに関する論文やレポートに関するレビューを行い、随時 Web に掲載する。
- ・ 医療被ばくに関する疑問点や問題意識、要望等、医療関係者の意見を吸い上げるために、紹介制の掲示版をネットに立ち上げる。
- ・ 来年の秋頃、シンポジウムを開催し、そこで出された意見等も参考にした上で報告書をまとめる。
- ・ 患者にどう説明するかを常に意識しながら活動するが、本専門研究会の主要なターゲットは医療関係者とする。
- ・ 学会の研究発表会に合わせて会合を開く以外は、Google グループを活用して作業を進める。

今後、活動報告は、学会 Web およびニュースレターを通して随時行っていく予定である。

[構成メンバー] 甲斐倫明（大分看科大：主査）、太田勝正（名大）、小野孝二（大分三重病院）、酒井一夫（放医研）、長谷川隆幸（東海大）、伴信彦（大分看科大：幹事）、福土政広（首都大学東京）、吉永信治（放医研）

（大分看科大 伴 信彦）

放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会

本専門研究会は、様々な分野において既に運用されている個々のリスクマネジメントを展開し、原子力・放射線分野におけるものと統合化を行うことが重要との考えから、わが国における放射線安全についての新しいパラダイムを検討することを目的に活動しています。

第 1 回会合を 6 月 9 日（於 東京）に開催しました。第 1 回会合では、研究会設立の経緯、趣意説明、今後の方向性等について議論を進めました。また、第 2 回会合を 6 月 26 日（於 沖縄）に開催しました。第 2 回会合では、放射線安全の現状の問題点について委員各々からの意見提示を行い、研究会内でのファクト共有の後、保安院への働きかけ、事業者のトップとの意見交換といった具体的なアクションリストを明確にしました。

当専門研究会は、今後も定期的開催していく予定です。

(幹事 東京大学 阿部琢也)

学友会

活動報告

先月、沖縄で開催された第42回日本保健物理学会研究発表会にて学友会は主に二つの活動を行いました。一つはポスター発表における学友会活動の宣伝、もう一つは学友会主催セッションにおける討論会です。今回のニュースレターでは討論会の模様をお伝えします。

学友会主催セッションの討論のテーマは、「原子力・放射線の問題をどう宣伝するか」でした。30人以上の学生が参加しました。討論の前に東大小佐古研修士2年の小川達彦が基調講演を行いました。

内容は以下の通りです。1、時代は説明責任、対話が求められていること。2、原子力業界でも説明責任が求められている事例がたくさんある。3、1年前の柏崎刈羽原発を襲った地震の際にも原子力業界の説明は人々を安心させるには十分ではなかった。

そこで、学生とはいえ原子力・放射線を勉強してましてや保健物理学会の会員である我々は世間から見たら専門家であり、その自覚を持つべきだということで、原子力・放射線の知識を持たない人々にどうやって宣伝するかをまずは学生同士で討論する必要があると締めくくられた。

実際の討論では、学生を6つのグループに分けて、テーマと宣伝する対象をそれぞれ分担した。テーマは「原子力の必要性」、「放射線治療」、「原発の安全性、有効性」などで、対象は「子供」、「大人」、「患者」、「彼氏彼女」などでした。

約30分にわたる討論の後、各班の代表が討論内容を報告しました。代表的なものを載せます。

「教育にもっと原子力を取り込むことが効果があると考えます。霧箱を自作して放射線を目で見たり、原子力のPR館に見学に行くことにより、原子力に対するアレルギーは少なくなるはずだ。」

「患者にとってはリスクの有無が関心事であるが、不用意に伝えるとかえって心配事となり、患者の健康に良くない。患者によって臨機応変に対応する必要がある。」

「彼氏彼女に自分が原子力を研究していることを伝えるためには、原発のある地域でデートをすることが効果的です。原発は田舎にあるため星がきれいに見えてロマンチックだ。原発のある敷地内に遊園地を作り、開放すればもっと親しみやすくなるはずだ。」

「温室効果ガス削減にも、化石燃料の使用を抑えるためにも、原発が有効であることを公共広告機構のCMを使って広めることが効果的ではないか。」などなど。

この討論会を通じて、学友会メンバーは今の現状では原子力放射線が一般の人々にとってまだ身近ではないことを再確認して、どうすれば距離を縮められるかを真剣に考える機会を得ることが出来た。

今後も学友会として自分たちが成長できるような試みを考えて実行してゆこうと思います。



(東京大学原子力国際専攻 修士二年 嶋田和真)

学会掲示板

インターネットグループの活動

インターネットグループ（IG）は、保健物理学会企画委員会の傘下で、(1)学会ホームページの管理、(2)学会メーリングリストの管理、(3)ニュースレターの発行に関する活動を行っています。

現在、活動しているメンバーは次のとおりです。

- ・ メーリングリスト管理（主査兼務）
山崎 直（原子力機構）
- ・ ホームページ保守
中野政尚・吉富 寛（原子力機構）、荻野晴之（電中研）
- ・ ニュースレター編集
佐川宏幸（福山大学）、鈴木敦雄（静岡県）

IG活動へ興味を持たれた方、学会ホームページ等活動内容へ改善案をお持ちの方は、気軽に学会公式アドレス（jhps@wwwsoc.nii.ac.jp）へメールしてください。

メーリングリストへのアドレス登録のお願い

日本保健物理学会では学会員の皆様への情報提供を目的として、メーリングリストを運用しております。メーリングリストでは、研究発表会やシンポジウムの開催案内・専門研究会活動・人事公募・ニュースレター発行案内などの情報が、月10件程度メールで配信されています。配信を希望される方は、保物事務局（jhps@iva.jp）まで配信先アドレスを連絡願います。

（IG主査 原子力機構 山崎直）

学会刊行物の案内

保健物理学会から下記の出版物が刊行されています（括弧内は残部数）。入手ご希望の方は、NPO 事務センターにお申し込み下さい（送料・税別）。なお、学会の研究発表会や企画行事の際には割引価格で販売している刊行物もあります。

- 1) ICRP Publ.66 新呼吸気道モデル概要と解説(1995) 1,777 円 (32 部)
- 2) ラドンの人体への影響評価専門研究会報告書(1998) 1,700 円 (53 部)
- 3) 高度人体ファントム専門研究会成果報告書(1998) 2,000 円 (81 部)
- 4) 自然界の放射線（能）の面白さ、相互理解の掛け橋に(2001) 1,700 円 (128 部)
- 5) 人々とともにある研究が拓く相互理解と信頼関係(2002) 2,000 円 (159 部)
- 6) 放射線の人体への影響 第3版(1986) 800 円（会員割引価格、送料込）（4 部）
- 7) 放射線の人体への影響 第5版(1992) 800 円（会員割引価格、送料込）（15 部）

連絡先：日本保健物理学会事務局

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-5-3-716 事務センター

TEL 03-5339-7286 FAX 03-5339-7285 E-mail: jhps@iva.jp

発行：日本保健物理学会企画委員会

編集：企画委員会インターネットグループ

担当：鈴木敦雄（静岡県環境放射線監視センター）